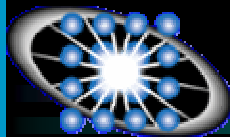


2004年10月18日緊急シンポジウム-どうする日本の学術誌！

# 物理の場合

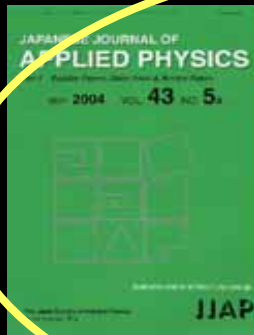
物理系学術誌刊行協会(IPAP)

事務局長補佐 谷藤幹子



# 物理系学術誌刊行協会

- 1962年設立
  - 日本物理学会と応用物理学会 (総会員数 約4万人)
  - 物理系学会英文誌 4誌 (JJAP, JPSJ, PTP, OR)
  - 学会ジャーナルの編集制作の合理化、電子化出版
  - 職員10名

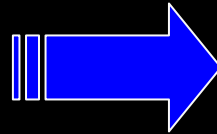


応用物理学会

日本物理学会 理論物理刊行会 日本光学会

# 学会ジャーナルの危機

国内で研究された  
成果報告が、  
投稿されない



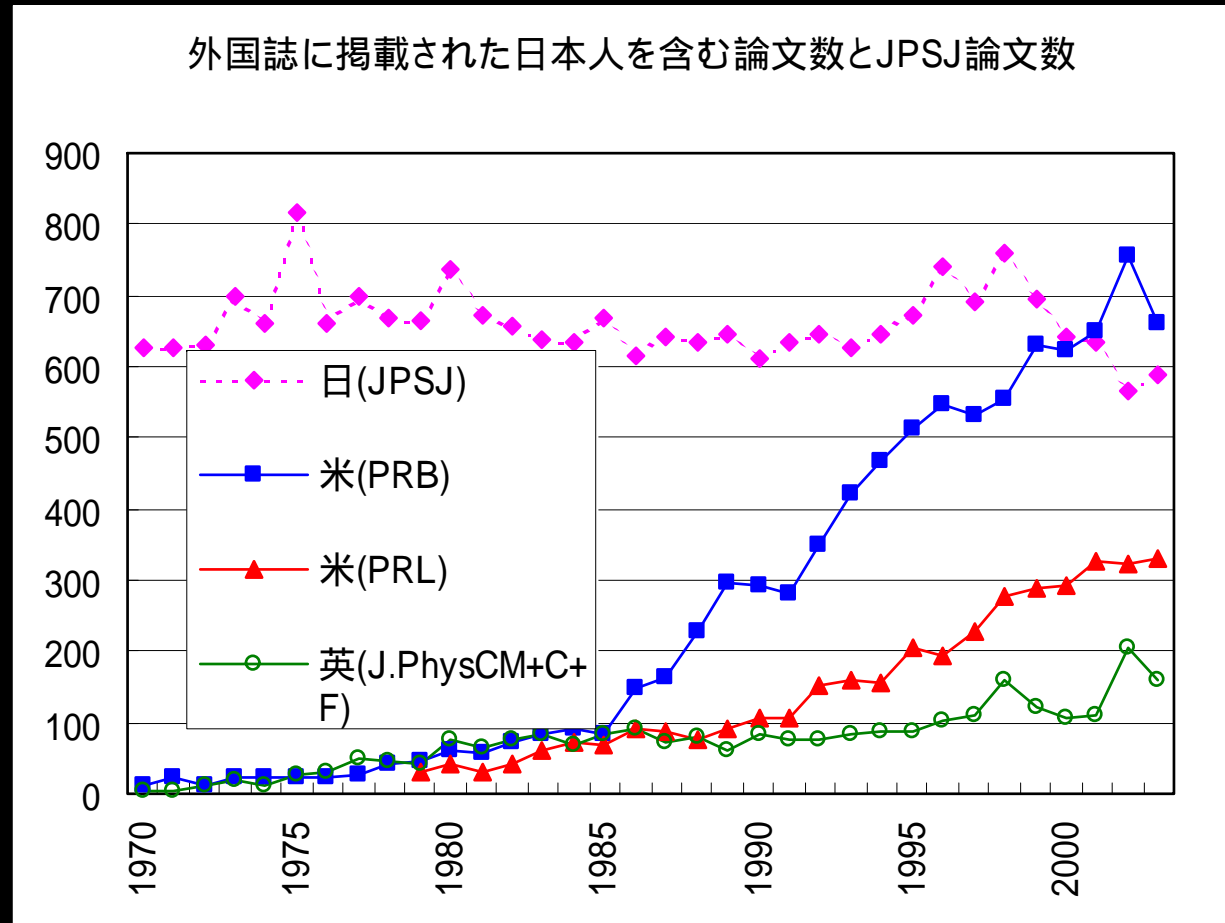
- 良い論文はIFが高い海外有名誌へ投稿する？
- 国内論文生産量は已然として増加傾向であるが、質の良い論文は多くはない？

国内の大学や  
企業図書館が  
購読しない



- 世界的に図書館予算が厳しくなっている？
- 海外大手ジャーナルの価格高騰で、国産ジャーナルをカットせざるを得ない？

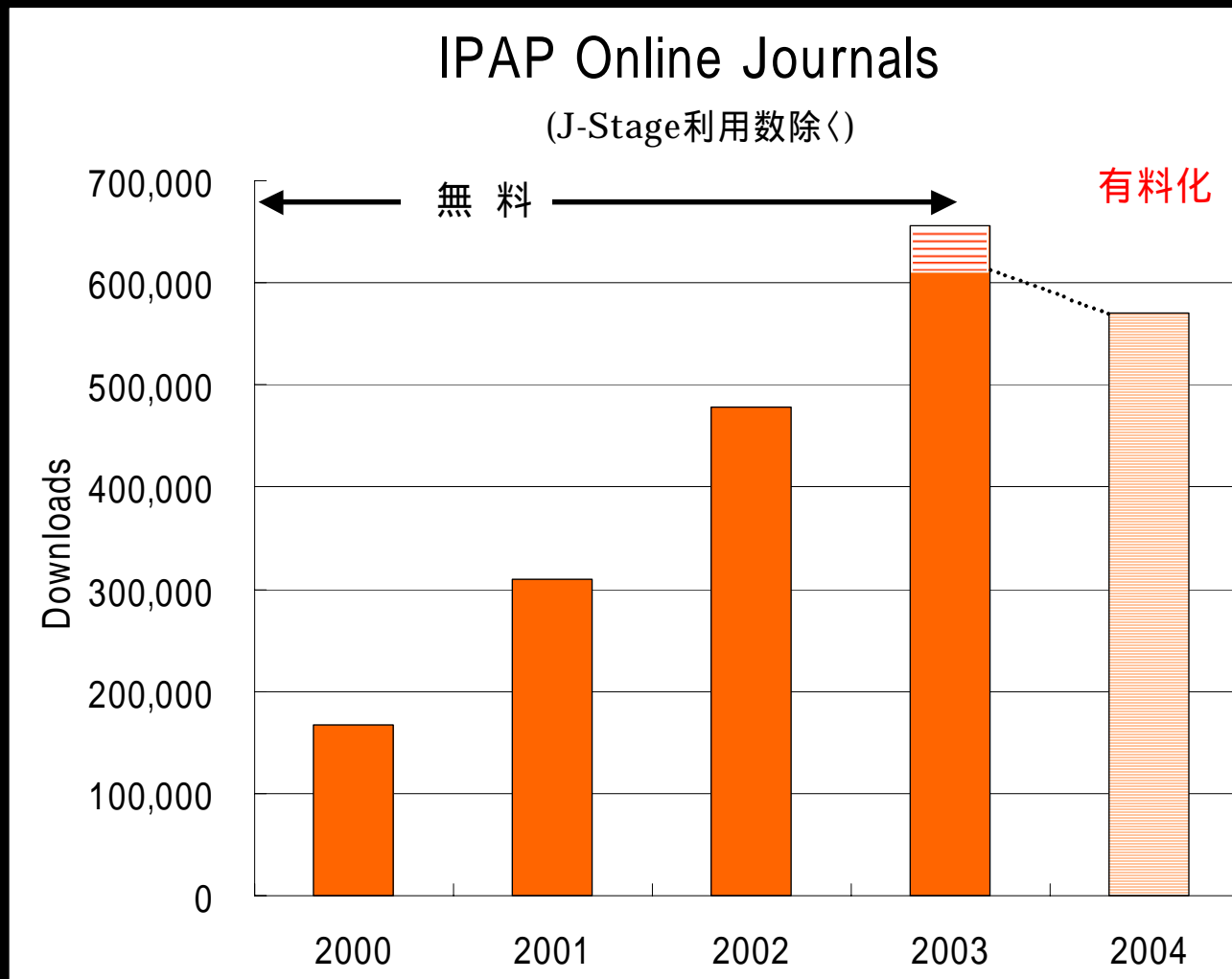
# 実証1：国内から国内誌への投稿減，海外誌に投稿増



佐宗哲郎氏(埼玉大)による

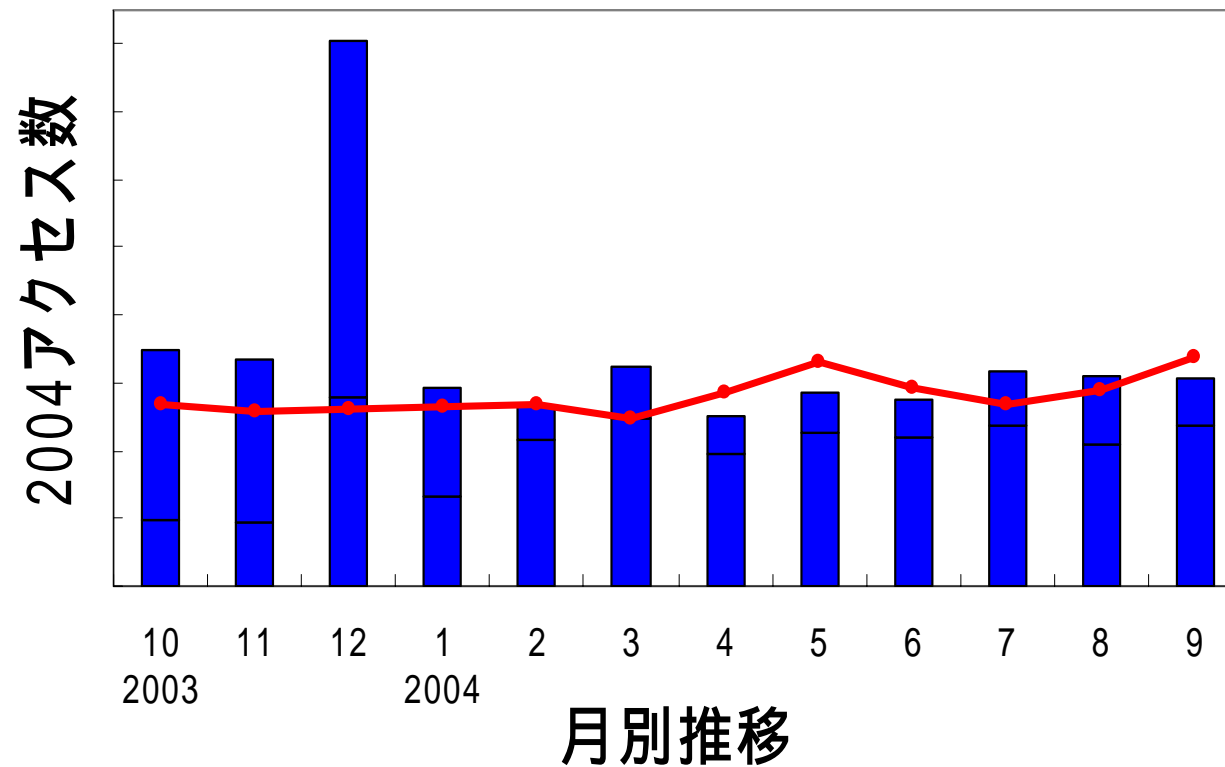
日本からの流出論文数は、海外誌(世界全体)の発行論文数の10.6%を占めている(NII調べ)

## 実証2: Web版は非常に多く利用されている

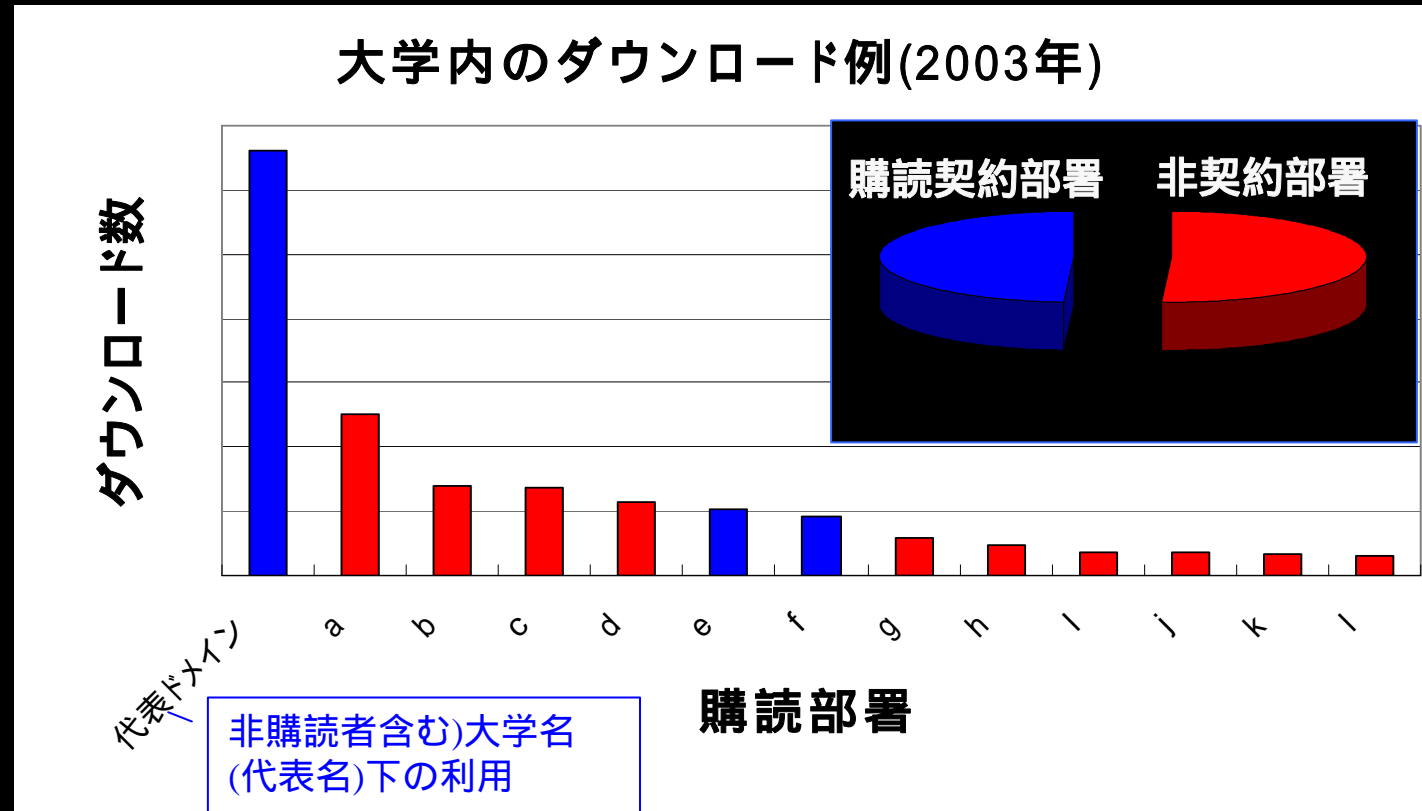


## 実証3：Web版を有料化しても復調傾向がある

### JJAP Online版のダウンロード数



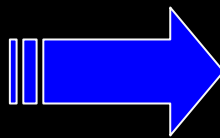
# 実証4：機関購読が部署間で平均負担されていないケース



# 学会ジャーナルへの誤解

## < その1: 存在意義 >

学会ジャーナル  
はなくてもよい。  
物理系論文誌は  
海外にも沢山あ  
るではないか。

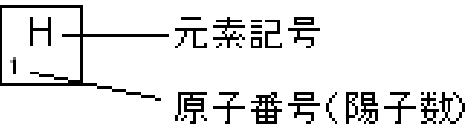


・グローバルな厳しい研究  
競争に対し、自国の査読制  
度が必要

・日本独自の新分野を開拓  
するプラットフォームが必要



族	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
1	H 1																		He 2
2	Li 3	Be 4											B 5	C 6	N 7	O 8	F 9	Ne 10	
3	Na 11	Mg 12											Al 13	Si 14	P 15	S 16	Cl 17	Ar 18	
4	K 19	Ca 20	Sc 21	Ti 22	V 23	Cr 24	Mn 25	Fe 26	Co 27	Ni 28	Cu 29	Zn 30	Ga 31	Ge 32	As 33	Se 34	Br 35	Kr 36	
5	Rb 37	Sr 38	Y 39	Zr 40	Nb 41	Mo 42	Tc 43	Ru 44	Rh 45	Pd 46	Ag 47	Cd 48	In 49	Sn 50	Sb 51	Te 52	I 53	Xe 54	
6	Cs 55	Ba 56	* ↑	Hf 72	Ta 73	W 74	Re 75	Os 76	Ir 77	Pt 78	Au 79	Hg 80	Tl 81	Pb 82	Bi 83	Po 84	At 85	Rn 86	
7	Fr 87	Ra 88	† ↑	Rf 104	Db 105	Sg 106	Bh 107	Hs 108	Mt 109	Ds 110	111 (Rg)	112	113	114	115	116			118
			*ランタノイド ↓	La 57	Ce 58	Pr 59	Nd 60	Pm 61	Sm 62	Eu 63	Gd 64	Tb 65	Dy 66	Ho 67	Er 68				
			†アクチノイド ↓	Ac 89	Th 90	Pa 91	U 92	Np 93	Pu 94	Am 95	Cm 96	Bk 97	Cf 98	Es 99	Fm 100				



→ 超アクチノイド元素

← 今回発見した元素

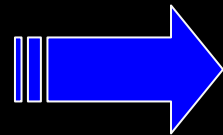
原子番号113の原子核合成に成功、元素発見の歴史的快挙。

- 天然に存在する物質から発見された元素
- 人工的に合成することにより発見された元素

111-116、118番は命名に至っていない  
理科年表 平成16年 を参考に作成

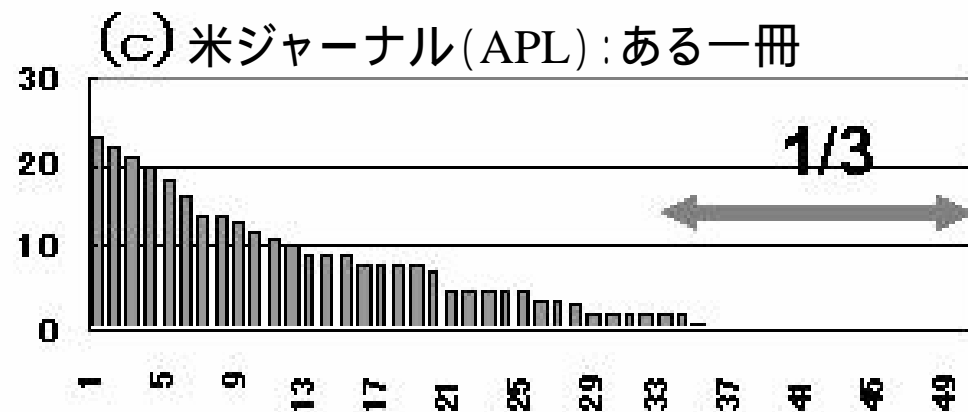
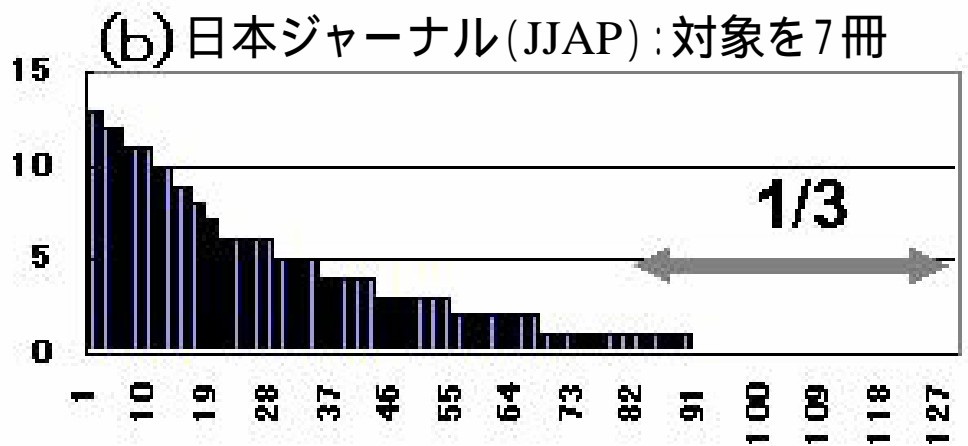
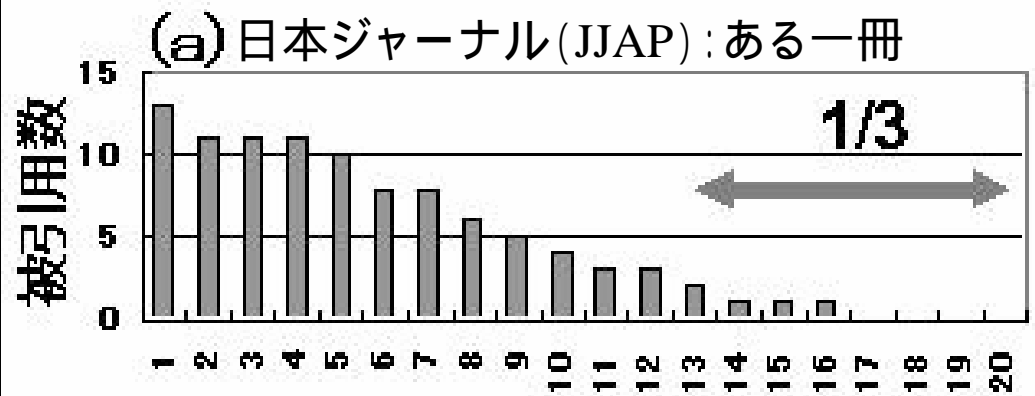
# 学会ジャーナルへの誤解 <その2:インパクトファクタ>

学会ジャーナル  
はIF値が低い。  
(=投稿,購読の  
必要は特にな  
い  
のでは.)



『個々の論文の価値を評価する際に、IFを使うことは誤りであり、個々の論文の内容に即して論文そのものの価値を評価する以外に正しい評価はありえない』

- I F 創設者Garfield氏による



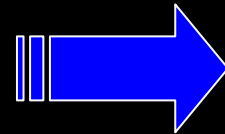
両誌とも発行後約2半にわたり、全体の1/3の論文はほとんど引用されていない。

良く引用されるものは引用され、引用されないものはほとんど引用されない。

# 学会ジャーナルへの誤解

## < その3 : 学会の責任 >

学会ジャーナルが  
必要と言うなら、  
まず、  
学会としてやるべき  
ことがあるのではない  
か。



学会は危機意識を持って、  
“投稿すべき”、“購読すべ  
き” 自国ジャーナルとして、  
内容充実、発信力強化  
サービス強化、販売促進  
という改革に取り組み

# 学会の取り組み

## 1. ジャーナルの内容を良くする

- **専任編集委員長制度** - 長期的視野に立った編集方針の改革と一貫性.
- **ジャーナルの再編成** - 創刊史の長い二大論文誌を統合し, より投稿しやすいプラットフォームを目指す.
- **閲読体制の改良** - “論文閲読の質向上”. 閲読者の育成と啓蒙(編集貢献賞)
- **Head Editor制度** - ジャーナル分野を代表する専門家. 各分野の研究動向, 研究者ニーズを反映.
- **企画特集** - activeな分野に焦点をあて, 最先端の研究内容を特集

# 学会の取り組み

## 2. ジャーナルの発信力を高める

- **ホームページ改良** - 全面リニューアル、ニュース欄新設で解説記事、編集委員会が選ぶ目玉論文やレビュー論文をトップページで紹介。
- **高速出版** - できるだけ早い論文公表、週刊化（最短25日で出版）、Web版先行出版。
- **新刊案内** - Web版公開と同時に会員アラート配信サービス
- **CrossRefへ加盟** - 関連分野の海外誌と引用文献相互リンクを強化
- **ポータルサイト** - 研究者に利用されるポータルサービスでも検索対象、閲覧可。

# 学会の取り組み

## 3. ジャーナルを“売る”

- **学会姿勢の見直し** - 購読状況の管理, サポートへの意識改革.
- **購読者の動向分析** - 紙版の増減傾向, Web版の利用傾向, 機関会員数や投稿状況など
- **SPARC** - パートナー誌として参加. 図書館コミュニティへのアプローチ. 働きかけ.
- **J-Stage** - 新刊号も搭載へ. 二次リソース.
- **購読機関サービス** - SPARC活動を通じてサイトライセンス移行開始. 2005年国内一部機関, 2006年国内全機関と海外機関を予定.

サイトライセンス制により、

- 機関の規模による利用単価の不公平を是正
- 中央図書館で集中管理<-購読サービスを強化

ライセンス料の試算(Index)

$$\text{Index} = f(A, B, C, \dots)$$

A; 学会の会員数

B; 助成金の規模

C; 複数年のオンライン版利用度(全文PDFのダウンロード数平均値)

D; ...

上記でIndexを4クラスに分け

クラス1~クラス3

購読料=ライセンス料 + [紙版(定価の30~40%) × 冊数]

クラス4

購読料=紙版定価 × 冊数



# 問題提起

## 研究者の意識改革

・・・自国のジャーナルがなくなってもいいのか、と問い直し。

## 機関(大学図書館, 研究所, 企業)の取り組み

・・・自国のジャーナルを積極的にサポート。

## 政府機関の機動力

・・・研究成果の適切な評価基準。他国に依存せず。

## 学会の競争力

・・・学会自身が力をつける - 技術, 人材育成, 競争意識。  
日本独自性。